

## 430MHz、運用について、最終まとめ、その2

先回につき、固定局の場合です。やはり固定局でのアンテナは出来る限り、ゲインの有るアンテナの方が有利です。ホイップアンテナよりGPアンテナ、GPアンテナより八木アンテナと言った具合です。八木アンテナもエレメント数や、ブームの長さに依ってゲインも違って来ますし、八木アンテナのタイプによっても違いはあります。当然アンテナを取り付ける高さに依っても、そして周囲のロケーションに依っても違って来ます。430MHzに限った事では有りませんが、1にコンディション、2にロケーション、3に高さ、4にゲイン、5については後で説明しますが、何と云っても430MHzはコンディションが一番です。いくら、良いアンテナを上げて居ても、コンディションに依ってはサッパリ飛んで行かない時も有れば、お粗末なアンテナでもつながって交信できる。と言った様な事も有ります。高さは言うまでも無く、直進性や反射に優れた特徴のあるUH、F帯でロケーションに優れた、周りに何の障害物が無い場所では、高さが物を言います。まさか隣の高層マンションを越す迄とは行きませんが、高いに越した事は有りません。アンテナの種類に依ってもゲインは変わっても来ます。こればかりは、これが良い、とは言いきれません。メーカーに依っても違って来ますが、特に、八木アンテナの場合は、ブームの長さやエレメント数の事も考慮して取り付けるスペースに依って決めて下さい。ここの踏ん張りは、やはりエレメントの多いアンテナが有利です。これもスタックと言って同じアンテナを間隔を取って2枚並べ、尚も2段と言った組み方や、もっとは4枚を並べ、しかも2段に、と言った、お子使いの全てを捧げたアンテナ等の組み方も有ります。別にDXを追っかけて居ないならアンテナは何でも良いんですが、FMモードでの交信の場合、ホイップアンテナや、GPアンテナは、近隣周波数のカブリが耳障りです。エレメント数の少ない八木アンテナでも、或る程度指向性があれば、邪魔なカブリもサイドが切れます。ここで言う、アンテナは、あくまで遠くの局と交信するDX通信を目的としたアンテナを書いて居ますので、ご理解ください。アンテナの設置が決まればアンテナ迄の同軸ケーブルです。これは、今まで何度も書いて居ますので、すぐに理解できると思います。ケーブルは性能の良い物を無理をしても使いましょ。後で後悔するよりは良いでしょう。最低でも10D-FBは欲しい所です、余裕が有れば、12D-SFAなんて物も有りますが、もっと余裕が有れば同軸管も有ります。が、アマチュア無線で有れば贅沢品です。同軸の長さは以前 何度も書いて居ます。お判りだと思いますが、電気長の長さで無線機に接続して下さい。ここまで設備が整えば、もう立派なDXerでしょう。だが、もう一点、どうしてもDX通信には欠かせない物が有ります。それは先回、後書きします、と言ったプリアンプです。メーカーに依っては、有り得ないゲイン表示をした物も有り、ピンからキリです。利得の表示に騙されない様ご注意ください。基本に成るのはN/Fです。ノイズ迄増幅されたプリアンプなら無線機の針が振れるだけ、良い物は微かなノイズだけで無線機の針は触れません。変調を拾うと、変調だけが浮きがって来ます。しかし残念ながら、こう言ったプリアンプに使われて居るデバイスは、メーカーでもすでに、製造停止に成り、市販も無く成りました。今はICタイプが主流に成り、スッゲ〜、って驚く程の物は無く、パーツ屋さんが僅かに在庫して居る物や、隠し持った自作派が、オークション等に時々出回る程度です。自作派と書きましたが、これも後書きします。このプリアンプの良し悪しで、惜しくもDXを逃した局も有ります。さて、先程の自作派ですが、八木アンテナやプリアンプや、アンテナのスタック時の、分配器、合成器、迄も自分の設備に合った物を自作されて居ます。430MHzは波長が短く、工作する物が小型ですので机の上でも、工作出来る手軽さが有ります。お子使い節約で、自作も、折々、勉強しましょ。次回は、アンテナとプリアンプの自作について書いて見ましょ。